



近畿農政局撮影

桜の花（京都府京都市）

京都の街中にピンク色の花が咲くと春がやってきます。

京都市の中心部にある京都御苑では、近衛邸跡休憩所付近の枝垂れ桜が開花しました。

近畿農政局からも散歩がてら出かけられる距離にある御苑は、市民の憩いの広場とともに有名な観光スポットです。

特に撮影した日は、「京都御所 春の一般公開」が行われていたため、多数の外国人を含む観光客で賑わっており、御苑内でいち早く花が開いた枝垂れ桜付近では、カメラやスマホで桜の可憐な花を笑顔で撮影していました。

これから暖かくなるにつれ、京都市内は一段と観光客で賑わうことでしょう。

◆◆ 主な内容 ◆◆

【インフォメーション】

・令和5年度「飼料用米多収日本一」近畿農政局長賞が決定しました！

＜近畿農政局からのお知らせ＞

・国産果物の消費拡大に関するポスターデザイン募集中！

＜和歌山県拠点からのお知らせ＞

・作物統計調査実施のお知らせ

・「わかやま農業女子ネットワーク交流会」を開催しました！

【トピックス】

・令和5年度「近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール」における近畿農政局長賞が決定しました

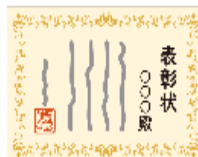
令和5年度

「飼料用米多収日本一」 近畿農政局長賞が決定しました！

農林水産省及び一般社団法人日本飼料用米振興協会は、平成28年度から飼料用米多収日本一表彰事業を開催しています。

近畿農政局では、全国段階で表彰された経営体以外の管内の優れた経営体を表彰し、近畿地域の飼料用米の生産技術の向上を推進することとしています。

この度、令和5年度の近畿農政局長賞の受賞者を以下のとおり決定しました。



【近畿農政局長賞：単位収量の部】 山田 奈々（滋賀県東近江市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
北陸193号	約1.6ha	784kg/10a	262kg/10a(537kg/10a)※ ※作況補正後の地域の平均単収
【経営概況】		【作付品目】	
○ 家族4人(本人、夫、両親)で経営する兼業農家。		・主食用米:夢ごこち、きぬむすめ、 しははふたもち 滋賀羽二重糯 約2.5ha	
○ 水稻専作で、経営面積約4.3ha		・飼料用米:北陸193号 約1.6ha	
【取組のきっかけ】			
○ 小規模集落で離農者が増える中、不作付地の解消と収益増加のため、借地を含む農地において、平成26年度から主食用品種「日本晴」で飼料用米生産に取り組む。			
○ 平成27年度から、出荷先の商系事業者(米・資材卸)の薦めもあり、倒伏に強く、多収である「北陸193号」の生産に取り組んでいる。			
【取組概要】			
○ 「北陸193号」は主食用より早く定植し、主食用より遅く収穫することで、品種特性を踏まえた十分な生育期間を確保し、未熟粒を減らして単収を増加させている。			
○ 良質な土づくりのため、水稻収穫後1週間以内にもみがらを散布し、わらと併せてすき込むとともに、12月末までに再度のすき込みを行っている。			
○ 施肥は、元肥として窒素分30%の緩効性肥料を田植と同時(5月3～5日)に施用(30kg/10a)し、幼穂形成期の少し前(7月13～16日)に追肥することで株の根張りを向上させている。追肥は、過去の施肥量と収穫量を分析するなどし、ほ場に応じて安価な単肥(尿素)を施用するなど、コスト低減に取り組んでいる。			
○ このほか省力化の取組として、簡易水槽でプールによる育苗や苗数を減らすため疎植にするとともに、防除は育苗箱施用と除草剤の田植7日後散布の2回に削減している。			
○ 6月中旬に確実に水切り作業を行い、最高分げつ期の直前に十分な落水を行うことにより、倒伏防止と根の活性化を促進している。			
○ 地域の気象・土壌条件に即した生産技術の確立により、毎年高い単位収量を確保している。			



授賞式の様子（山田奈々氏 代理）



【近畿農政局長賞：地域の平均単収からの増収の部】ユキオズファーム（滋賀県大津市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
みなちから	約3.1ha	647kg/10a	162kg/10a(499kg/10a)※ ※作況補正後の地域の平均単収
【経営概況】		【作付品目】	
○ 本人、従業員2名、アルバイト2名で経営する専業農家。		・主食用米:コシヒカリ、ミルキークイーン、キヌヒカリ、きぬむすめ、ほか 約19.0ha	
○ 経営面積は36ha。飼料用米、主食用米、麦、大豆、子実用とうもろこしを栽培		・飼料用米:みなちから 約3.1ha ・麦・大豆・子実用とうもろこし 約13.9ha	
【取組のきっかけ】			
○ 地域の養鶏農家が国産の飼料利用を進める中で、平成19年から飼料用米「日本晴」の作付けを開始。その後、「モミロマン」「時おうみ」「北陸193号」を作付けし、令和4年度から「みなちから」を作付けしている。			
○ 当該地域は砂壤土で単収が低いことから、地域で初めて多収品種で病害虫に強い「みなちから」を作付けている。			
【取組概要】			
○ 単収向上に向けて、JAと連携して施肥設計を見直すとともに、(ほ場条件に合わせた鶏糞の活用や普及センターともタイアップしながら肥料が切れないように)肥培管理を行っている。			
○ 生産コスト低減のため、(ほ場ごとに)施肥体系を分け、側条施肥田植えによる元肥の(一発施用や大型ドローンを用いた)化成肥料の追肥(穂肥1回)をJAへ委託するとともに、(自ら所有しているドローンを活用し)除草剤の散布を行っている。			
○ さらに省力化のため、防除は、原則、田植え時に除草剤を同時散布(1回)し、立毛乾燥をするとともに、(収穫・乾燥調製作業は、主食用米と作りを分けている)。			
○ 生産した飼料用米は、「50グラム会」(滋賀4軒、三重1軒の養鶏グループ)へ出荷し、養鶏農家から無償で提供された鶏糞をほ場へ還元するなど、耕畜連携の取組を行っている。			
○ 早くから飼料用米の生産に取り組み、近隣の担い手農家と多収に向けた技術の情報交換を行うなど地域の模範となっている。			



授賞式の様子（ユキオズファーム）



詳しくはこちら

（近畿農政局ホームページ）

https://www.maff.go.jp/kinki/press/sinko/240304_8.html



【お問合せ先】：近畿農政局 生産部 生産振興課

担当者：稲田、千田、西原

TEL：075-414-9020

農政局からの お知らせ

◆国産果物の消費拡大に関するポスター デザイン募集中！



農林水産省では、国民の皆様にも、果物を食べることの重要性を改めて認識いただくため、また、国産果物をもっと身近に感じていただくため、国産果物の消費拡大に関するポスターデザインの募集を行っています。

1.趣旨

果物は、各種ビタミン、ミネラル及び食物繊維の摂取源として重要な食品であり、生活習慣病の予防の観点から適量を毎日の食生活に取り入れることが必要です（注）。

このため、農林水産省では、生産者団体等と協力して実施している「毎日くだもの200グラム運動」などにより、果物の摂取が生涯にわたる食習慣となるよう、その定着を推進しています。

このたび、国民の皆様にも、果物を食べることの重要性を改めて認識いただくため、また、国産果物をもっと身近に感じていただくため、国産果物の消費拡大に関するポスターデザインを全国から広く募集します。

（注：本年4月から始まる健康づくりの指標「健康日本21（第三次）」では、20歳以上の1日当たりの果物摂取量の目標値は200gとなります。現状の摂取量は平均100g程度となっており、特に20～50歳代で不足が目立っています。）



2.表彰点数

農産局長賞：1点（国産果物の消費拡大に関するポスターとして採用のうえ、農林水産省Webページに掲載します。受賞者へは賞状を郵送します。）

入賞：数点（農林水産省Webページに掲載します。）

3.募集の概要

（1）テーマ、（2）応募条件等の詳細は、以下の農林水産省ホームページでご確認ください。

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/ryutu/240313.html>



（3）募集期間：

令和6年3月13日（水曜日）から5月13日（月曜日）



農林水産省 農産局 園芸作物課
担当者：中村、高畑、藤富
TEL：03-3502-5958



詳しくはこちら（農林水産省ホームページ）
<https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/ryutu/240313.html>

和歌山県拠点 からのお知らせ

◆作物統計調査実施のお知らせ

農林水産省では、食料を安定的に供給するため、基本的な情報である農作物の作付面積、生産量等を把握する作物統計調査を実施しています。

令和6年度は、以下のとおり現地での調査を予定していますので、御理解、御協力のほどよろしくお願いいたします。

【現地調査時期】

令和6年4月～令和6年7月の間

令和6年9月～令和7年2月の間

【調査場所】

県内対象地域ほ場周辺

【調査実施者】

農林水産省から任命された「統計調査員」

【調査内容】

野菜、果樹等の作付状況の確認

【お問合せ先】

〒640-8143

和歌山市二番丁3 和歌山地方合同庁舎

農林水産省 近畿農政局和歌山県拠点 統計担当

電話：073-436-3835

◆「わかやま農業女子ネットワーク交流会」を 開催しました！

令和6年2月29日（木曜日）、和歌山ビッグ愛 会議室において「わかやま農業女子ネットワーク交流会」を開催しました。



今回の交流会では、元消防職員で現在はすさみ町で家業の農林業を営む、むかい企画の向井克往さんを講師に招き、「災害対策・対応」をテーマに農業者目線も交え、ご講演いただきました。

詳しくはこちら（和歌山拠点HP）

<https://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/wakayama/photo/img/202403wajoshi/wajoshi.html>



令和5年度

近畿地域未来につながる持続可能な 農業推進コンクールにおける 近畿農政局長賞が決定しました



農林水産省は、農業生産活動の持続性を確保するため、農業の自然循環機能を活かし、農業生産に由来する環境への負荷を低減する取組として、有機農業をはじめとする環境保全型農業を推進するとともに、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理等の持続可能性を確保するための一連の取組であるGAP（※）を推進しています。

この一環として、持続可能な農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改善等に取り組んでいる農業者等をGAP部門、有機農業・環境保全型農業部門に分けて「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」を実施し、表彰しています。

今般、近畿地域における優れた取組を行う生産者に対し、近畿農政局長賞の受賞者を以下のとおり決定しましたのでお知らせします。（※）GAP（Good Agricultural Practices：農業生産工程管理）

近畿農政局長賞受賞者

令和5年度 近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール	令和5年度 近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール	令和5年度 近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール
(GAP部門)	(有機農業・環境保全型農業部門)	(有機農業・環境保全型農業部門)
GAPを活かした教育活動の展開	有機JAS農産物や大阪工農産物の販売拡大を通じての生産と消費をつなぐ取り組み	環境に優しい農業と良食米づくりの両立
きょうとふりつづきこうとうがっこう 京都府立木津高等学校	からしきがいしゃ さんらざ 株式会社 サンブラザ	ゆめふあーむ (だいひょう あおやま なおや) ユメファーム(代表 青山 直也)
主な取組 京都府木津川市	主な取組 大阪府羽曳野市	主な取組 兵庫県豊岡市
木津高校は、京都府と連携し、「茶」の生産農家に対して適正な生産工程等の普及に取り組んでいる。 また、2017年にGLOBALGAP認証を「茶」で取得し、現在に至るまで認証を継続している。 GAPの取組を通して安全・衛生への意識向上に努めており、茶の生産から製茶に至るまで作業の改善に向け継続的に取り組んでいるほか、生徒が安全・衛生について学習する時間を増加させるなど、人材育成に力を入れている。 GAPのモデル農場として、毎年GAP認証の取得に関心のある農業者、農業関係機関を対象に認証審査を公開し、その様子は京都新聞に掲載されるなど、地域におけるGAPの取組拡大に大いに貢献している。 書類審査の様子 圃場審査の様子	株式会社サンブラザは「食卓に安心と健康をお届けする」をモットーに、大阪府南部エリアを中心に36店舗展開する食品スーパーであり、有機JAS 農産物や大阪工農産物を制度発足当初の約20年前から取り扱っている。 大阪工農産物について11品目（約143t）、10名の生産者の方々と直接取引を行い、有機JAS、大阪工農産物や地産地消商品の販売促進に取り組み、TVや新聞などマスコミにも広く取り上げられてきた。 さらに、農林水産省との温室効果ガス削減の「見える化」実証、大阪府の脱炭素社会への取組（「OsakaAGreenAction」）に参加しており、府民の脱炭素への意識改革や行動喚起をはかっている。 今年度は、さらに品目を増やすとともに、大阪版CFPの普及拡大、「国産有機サポーターズ」の一員として、取組を拡大させる。 また、こまつな生産者の園での収穫体験を毎年行い、消費者に大阪工農産物の魅力を伝える取り組みを実施してきた。 有機JAS、大阪工農産物特設コーナー こまつな収穫体験の様子	ユメファーム代表青山直也氏は、会社に勤めながら父親の農業を手伝う兼業農家であったが、平成23年から専業農家に転身、認定農業者となった。同年からコウノトリ育む農法（減農薬タイプ）を開始し、兵庫県認証食品のひょうご安心ブランドを取得。「次世代へつなぐ農業」を掲げ、安全・安心・おいしい米づくりに取り組んでいる。 さらに、平成26年から同農法（無農薬タイプ）、平成29年から他の生産者4名とJAたしまの団体認証でGLOBALGAPを取得、令和3年には有機JAS認証も取得している。 環境だけでなく、「食味」にもこだわりを持っており、平成24年『第14回 米・食味鑑定コンクール国際大会』で特別優秀賞、平成28年『第18回 同国際大会』で金賞を受賞。 また地域の農会長を11年間務めており、全ての農家が無理なく、少ない労力で作業のできる環境作りを行うなど、地域のリーダーとしても活躍している。 令和5年現在、経営面積は水稲9.5ha（内、コウノトリ育む農法無農薬3ha、15a（小葉5,000株）。

詳しくはこちら（近畿農政局ホームページ）
<https://www.maff.go.jp/kinki/press/kankyo/240311.html>



近畿農政局 生産部 生産技術環境課
 担当者：瀧脇、前田、杉本
 TEL：075-414-9722

農林水産省近畿農政局

近畿農政局 HP →



- 企画調整室 〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下る丁子風呂町
- 滋賀県拠点 〒520-0044 大津市京町3-1-1 大津びわ湖合同庁舎6F
- 京都府拠点 〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下る丁子風呂町
- 大阪府拠点 〒540-0008 大阪市中央区大手前1-5-44 大阪合同庁舎1号館6F
- 兵庫県拠点 〒650-0024 神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎4F
- 奈良県拠点 〒630-8113 奈良市法蓮町387 奈良第3地方合同庁舎3F
- 和歌山県拠点 〒640-8143 和歌山市二番丁3 和歌山地方合同庁舎5F

TEL(075)451-9161

TEL(077)522-4261

TEL(075)414-9015

TEL(06)6943-9691

TEL(078)331-9941

TEL(0742)32-1870

TEL(073)436-3831

近畿農政局
メールマガジン

